

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |              |    |                |
|----------------|--------------|----|----------------|
| ○事業所名          | 児童デイサービス ピピ2 |    |                |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年 1月 19日 |    | ～ 2026年 2月 5日  |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | 14 | (回答者数) 14      |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年 2月 5日  |    | ～ 2026年 2月 10日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | 6  | (回答者数) 6       |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 20日 |    |                |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること  | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等   |
|---|--|--|--|
| 1 | <b>*子どもたちのできるわかるがたくさん用意できている。</b><br>ひとりひとりの「できる」「わかる」を見つけ、得意を使って生きていく元気に働く大人になれるように支援をしているところ。                              | 日常におもちゃをつかったアセスメントをし、自立課題や生活やコミュニケーションのアイテムなどに反映し、自分で「できる」「わかる」がたくさんある活動を作っている。<br>お仕事ポイント(トークン)をためてお買い物にいく取り組みが、将来のお給料をもらって好きなものを買うことへとつながるように考えている。  | 今の「できる」「わかる」の積み重ねが、一人ひとりの将来へとつながるようライフプランをイメージして支援を行う。<br>ご家庭や学校と現状の共有と、将来のイメージの共有を図り、足並みをそろえた支援をしていく。 |
| 2 | <b>*表出コミュニケーション・理解(受容)コミュニケーションのバランスを考えて支援できている。</b><br>コミュニケーションや視覚支援に力を入れて取り組んでおり、一人ひとりのスケジュールや各コーナーでのリクエストボードなどがあり、使っている。 | 一人ひとりに合わせたスケジュールを用意している。<br>「やりなさい」というスケジュールではなく「じぶんの」スケジュールになるよう、リクエストや交渉などのコミュニケーション支援を取り入れたスケジュールになっている。<br>各コーナーにPECSリクエストボードがあり、それを使ったやり取りができている。 | コミュニケーション支援の研修等を行い、スタッフのスキルアップを図っていく。<br>家庭でのコミュニケーションにも生かしていただけるように、できたことについて一緒に喜べるような家庭との関係づくりをしていく。 |
| 3 | <b>*活動がわかりやすいコーナーづくりができている。</b><br>フロアでの作りだが、10のコーナーを作り、トラジッションコーナーからそれぞれが見渡せ、移動がしやすい作りになっている。                               | チームでのミーティングを重ね、必要に応じて再構造化をくりかえし、常に子どもたちの使いやすさやわかりやすさを追及している。子どもたちの成長に合わせて、必要なコーナーを作っている。   | ひとりひとりが各コーナーを快適に過ごしているかを確認し、過ごしやすい環境づくりをしていく。  |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること   | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等   |
|---|---|--|--|
| 1 | ・放課後児童クラブや児童館との交流や障害がない子どもと活動する機会<br>・地域交流の機会 | 積極的な交流の場は、保護者様から『交流を望んでいない』という声もあり、していない。が、近所のお弁当屋さんへの注文や配達の際のあいさつ、お仕事ポイントがたまった時の近所のお店での買い物などで、地域に出かける場面や地域の方が事業所に来られることは、増えている。 | 地域に自然と溶け込む事業所づくりを行うことで、利用している子どもたちが地域で育つと感じる機会が自然にできていくといいなあと思っている。                                      |
| 2 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携を支援する         | 働く親御さんが多いこともあり、保護者会などは求められていない現状がある。   | 保護者会等は、働く親御さんが多かったり兄弟児さんのこともある親御さんに負担が強くなると思われるので、皆さんが興味を持っておられる成人施設の見学やちょっとしたことが話せるしゃべり会などを企画していきたいと思う。 |
| 3 | 専門性のアピール                                      | 構造化や視覚的な支援を行っているが、それを必要としている特性のあるお子さんや保護者さんに情報がなかなか届いておらず、小学1年生の時点での利用よりも、少し大きくなって困り感が大きくなってから駆け込まれることも多くなっている。                  | SNSでの日常の取り組みなどを発信することで、必要な方へ情報として届くことを願っている。   |